

## 『大都市制度の構想と課題』を読む

明日 21 日、「背広ゼミ」京都研究会で表題について報告する。すでに報告要旨などは送ってあるが、事前にレポートで報告の骨子を紹介しておきたい。

昨年 11 月にもレポートしたが、本書は行政学・地方自治研究者の共同研究の成果であり、「本書の目的はとりあえず大都市制度として現に存在する東京都制と政令指定都市制度を中心に検討すること」にあり、副題のように地方自治と大都市制度改革にアプローチしている。

本書は写真のように、序章と第 I 部大都市の課題、第 II 部 都区制度の論点、終章から構成されている。本書の内容を細かく紹介するより、私なりにコメントしておきたい。

本書は大都市制度の構想と課題について、とりわけ「大阪都」構想に焦点

序章	大都市制度を検討する意義 (真山達志)
第 I 部 大都市の諸課題	
第 1 章	日本における大都市制度改革とその課題 ——普通市議・総合市議ハイパスをめぐって—— (森裕亮)
第 2 章	大都市制度改革構想と自治体議会の論点 (二浦正士)
第 3 章	大都市行政と児童相談所 (黒石啓太)
第 4 章	大都市と「ムニシティ」政策 (三浦哲司)
第 II 部 都区制度の論点	
第 5 章	都区の組織と運営 (入江容子)
第 6 章	都区制度と東京消防庁 (山岸絵美理)
第 7 章	都区制度改革と清掃事業 ——東京23区の事例に見る大都市清掃事業の未来—— (藤井誠一郎)
第 8 章	都区制度と保健所行政 (高橋幸子)
終章	大都市と都道府県 (牛山久仁彦)

をあて、そのモデルとされた東京都区制度の検証などから、その無謀な改革を直接ないし間接的に批判している。大阪市廃止・特別区設置という「大阪都」構想に対する行政学・地方自治研究者による本格的な批判として多くの示唆を得られた。また都区制度が抱える課題が、消防や清掃などの事務事業から具体的に明らかにされ、「大阪都」構想がいかに皮相な改革案であることを再確認できた。

その一方で、本書にいくつか「注文」したいこともある。3 点だけ指摘したい。

第 1 に、大都市制度改革は長い歴史があり、「時間軸」や時期区分を踏まえて、歴史的な分析が必要ではないだろうか。戦前の地方自治制度と「特別市制」、東京都誕生、戦後の「特別市」をめぐる動きと政令指定都市制度、東京都区制度の変遷、地方分権下の平成の大合併と政令市変質、「大阪都」構想の挫折と府市一元化、「特別自治市」構想などの動きである。

第 2 に、第 1 部の大都市の諸課題はこの 4 章だけでいいのか。大都市の課題を考えるうえで、大都市圏という分析枠組みが重要ではないか。中心都市と周辺の郊外衛星都市などとの関係である。その際、自治体間の行政だけでなく財政面の検討が欠かせない。これは第 II 部の都区制度の論点にも共通するが、大都市制度改革に財政からのアプローチがないのは残念である。

それに関わり第 3 に、大都市制度改革という限定されたテーマで論じられ、大都市の抱える今日的な課題へのアプローチに欠けることである。人口減少時代の国土と大都市、大都市圏と農山村との関係や連携、経済面を含めた地域政策の新たな課題などについても、すこしは触れてほしかった。

(2023 年 1 月 20 日)